



平成28年9月13日
スマイル学級通信
No. 11

“人”という漢字があります。これを互いに支え合っている様子を表しているという人がいます。人間は支え合っていかなくてはならない存在なんだと。でも、そういう視点で人という字を見ようとしても、支え合っているというより、もたれかかっているように見えてしまいませんか。

“人”という漢字の語源は、大地に足を踏ん張って立っているという説もあって、私はこちらの方が好きです。スマイル学級のカリキュラムに“自立活動”的時間があります。大地にしっかりと足を踏ん張って生きていけるように、いろいろな体験を積ませていきたいと考えています。

スマホが学力に与える影響について

文科省の調査や川島隆太教授による中学生 25000 人のデータから、スマホの学習者に与える悪影響が浮き彫りにされました。

まず衝撃的なのは、スマホを 4 時間以上使っている生徒は、2 時間以上家庭学習をしていても、全く家庭学習をしない生徒より数学の平均点が低いという結果が出たことです。スマホの影響で真っ先に脳裏に浮かぶことが“学習時間をスマホにとられて学力低下を起こす”ですが、この調査からそうではないことが判明しました。学習時間をとられるせいではなく、学習したことが消失しているという驚愕の事実なのです。

学習を司る脳の前頭前野は、ゲームやテレビを見ているときには、安静時以上に血流が下がり働きが低下することが分かっています。ゲーム等で長時間遊んだ後の 30 分から 1 時間ほどは前頭前野が麻痺したような状態となり、機能が回復しないそうです。この状態で学習しても理解力は向上しません。

テレビの長時間視聴を 3 年間続けた 5 ~ 18 歳の子の脳を MRI で解析すると、前頭前野の思考や言語を司る部分の発達が、そうではない子に比べて悪くなる傾向がこれまでの研究で確認されています。

マイクロソフト社のビル・ゲイツやアップル社のスティーヴ・ジョブズなど IT 界の創始者たちは揃って、自分の子供にはスマホはおろかパソコンさえ高校生までは触れさせなかつたと言われています。彼らは、将来、自分の子供たちが経営者となるべく、少・青年時代は人と触れ合う経験を十分積ませたいと考えているようです。人の触れ合いで身についたものこそ重要な財産になっていくことでしょう。

親は“子供がねだるから”“仲間はずれになるから”等、いろいろな理由でスマホを与えるのでしょうか、学力低下を招く危険性も十分知っておく必要があるでしょう。

※ 参考 くらしのメモ帳 “携帯・スマホ使用で成績が下がる”